

糸魚川市駅北まちづくり会議 第1回実践会議 記録

日時	令和元年8月6日(火) 18:30~21:00	会場	市民会館エントランス
件名	1 開 会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 今後の進め方など 5 これまでの経過 6 糸魚川市の現状と課題について ・人口、財政、中心市街地の状況(立地適正化計画関連資料) 7 テーマの設定について 8 閉 会		
出席者	日本料理鶴来家 専務取締役 青木資甫子 リノベーションスクール@糸魚川 サブユニットマスター 五十嵐昌樹 有限会社池原印刷所 代表取締役 池原寿子(個店の魅力アップ女性の会 副会長) 花重 磯貝 正子(個店の魅力アップ女性の会 顧問) リノベーションスクール@糸魚川 サブユニットマスター 猪又直登 有限会社二葉デンキ商会 代表取締役 加藤 康太郎 EKIKITA WORKS 幹事長 木島 嵩善 株式会社BASE968 取締役 小出 薫 加賀の井酒造株式会社 第18代蔵元 小林 大祐 おもちゃ木のこ 代表 齊藤 里沙 まちづくりらぼ 副代表 野村 祐太 リノベーションスクール@糸魚川 ユニットB企画者 藤岡 あかね EKIKITA WORKS 代表 本間 寛道 リノベーションスクール@糸魚川 ユニットA企画者 松木 美沙子 個店の魅力アップ女性の会 会長 室川 亜紀 外部アドバイザー 西村 浩(座長)		
会議概要			
1 開 会 (進行:事務局) 2 あいさつ(復興推進課長) ・糸魚川市駅北まちづくり会議の設置に際し、委員の任をお引き受けいただいたことへのお礼。 ・平成28年12月22日の大火から、2年7か月が経過。焼け野原であった被災地では、ほとんどの方が生活再建を果たしている。これからは、将来にわたって持続可能な住みよいまちづくりに向けた取組に軸足が移っていく。 ・にぎわいを含め、市民が主体となって、住みよいまちづくりに向けた活動を進めていくための「まちづくり戦略」が必要と考え、この駅北まちづくり会議を設置。 ・委員の皆様からは、駅北まちづくり戦略の策定に向けて、来年の夏頃までに協議いただく。具体的に実践できうるものを、少しでも戦略に盛り込みたい。			
3 委員紹介 ・参考資料 会議設置要綱の説明 ・座長の選出 西村浩氏に座長決定。			

(進行：座長)

4 今後の進め方について (説明：座長) ※7番目から4番目に繰り上げて説明

- ・「推進会議」と「実践会議」というふたつのフェーズの会議を通して戦略策定を進めていく。「実践会議」では戦略の具体案＝実践プログラムを検討し、「推進会議」は実践会議で検討した内容を承認し、推進していくために応援いただくための会議である。
- ・実践会議の2回目から4回目までは議論が拡散しないよう、各回に「テーマ」を設定し、そのテーマに沿って議論していく。どのようなテーマで議論していくかを今回決めたい。5回目(4月下旬)には、ここまでの議論を通じて、こんな街にしたいという発表の会としたい。6月には戦略の素案としてまとめたい。

5 これまでの経過 (説明：座長)

- ・駅北復興まちづくり計画で5か年の整備中心の計画がたてられているが、誰が整備し、整備した後の維持管理や運営を誰がやっていくのかが見えづらい。実践会議の役割は、具体的に動かしていくために、誰が・何を・どのように実践していくのかを念頭に置いたプログラムを検討していくこと。
- ・市民会議を昨年度開催。3つの提案があり、キッズファーストでは「子育て」「教育」「高齢者の社会参画」、まちの小さなはじまりの物語では、「稼ぐ・働く」「メディア」「ツーリズム」、暮らしのシェアでは「シェアある暮らし」「子育て」「ママの暮らし」「高齢者の社会参画」「働き方・暮らし方」などのキーワードが見えてくる。
- ・リノベーションスクールを昨年度の2月に開催。3つの提案事業があり、こどもとママのための民間公園「THE PARK」では、「ママの暮らし」「子育て」「公共空間の使い方」「安心・安全」、KUROHIMESANDWICH BEDandBARでは「食」「地産地消」「ツーリズム」「景観」、雁木と寺と路地のまちOneRoofでは「まちなか居住」「糸魚川らしい暮らし」「公共空間/寺」「景観」などのキーワードが見えてくる。スクールは、人材が発掘されていくということが重要なポイント。ぜひ当事者になって活動してほしい。
- ・市民の中で議論されたことはそのまますぐに政策になるわけではない。今回は、実践会議・推進会議で出された提案を行政内で庁内委員会を設け、従来の縦割りではなく、関係する各課・各係が横つながりに連携・協力して政策検討していけるよう、その調整役を復興推進課行っていく。したがって、委員の皆さんには行政組織の担当部署等を意識せず議論してもらいたい。

6 糸魚川市の現状と課題について

- ・糸魚川市の人口推計 (資料説明：企画定住課 縄主査)
- ・糸魚川市の財政 (資料説明：財政課 杉原財政係長)
- ・立地適正化計画における現状分析 (資料説明：建設課 田中計画交通係長)

(座長) ご意見、ご質問等あればどうぞ。

(委員) 冒頭から気持ちが落ち込む内容が多かったが、この現状をどう見ていくかが大事。広がったインフラへの対応、経済で計れない集落の維持、企業存在の維持など、日本のなかで30年先を進んでいる先進地として考えていかなければならない。

(座長) どこでも程度の違いはあれど、目の当たりにしている根本的な状況は一緒。これから日本でおこる現象に、糸魚川市が真っ先に取り組む状況。

(委員) 高齢者先進地域。どういう高齢者であるべきかと考えれば、病気になる前の健康な状態をどう維持していくかを考える。例えば、中山間地で田んぼなどをやっている人が元気であれば、元気になりたい人が先んじて住みたい場になることがあっても良い。

(座長)

- ・たくさんのヒントがデータの中にある。すべてのことが繋がっており関係がないことがな

い。様々な課題から生ずるものがあり、統廃合され使われなくなった元小学校の使い方、域内経済循環を目指した新しい産業育成、エネルギーの地産地消などを考えていくことが必要。

- ・固定資産税等の税収が激減。借金しながら返済している状況で市の財政は厳しい。
- ・これらの状況を変えていくためには、欲しい暮らしを自分達で作っていかねばならない。

7 テーマの設定について

(座長) 各委員からお一人5つ以内で発表。

(委員) 「子育て、教育」次世代で活躍する力、「交流」世代を超えた交流と市外者との交流(外貨獲得)。「健康」体と心の両方、「環境」デザイン(まちの良さ)、歩きやすさなど。「住みごこち」働く、生活、チャレンジしやすいトータル環境。

(委員) 「景観」にぎわいの定義、駅北の役割として何をやるべきか。城の川の復元を希望。「シェアある暮らし」流動型シェアの拠点(シェアハウス、シェアオフィスをネットワークで使うことができる。)

(委員) 「老人、福祉」年を取った人のUターン。「文化」石だけでなく、相馬御風、ヒスイ、奴奈川姫あり。石のまち糸魚川などで関連づけできる。「食」道の駅、まちなかの人の買い物など不便。

(委員) 「食、地元食材利用」まちなかで食料を買いに行ける場所がない。糸魚川の食材に魅力を感じて買いに来る市外の人がいる。ソウルフードの復活など”食”が一番大切。「高齢者のいきがい」ソウルフードや昔ながら、糸魚川ならではの食の復活により、高齢者のいきがいを確保。次世代への継承。

「健康」高齢者のいきがいがづくりが、健康で豊かに生活できる。「子育て」世代間交流。高齢者が子どもに教えるなどの関わり方ができる。「文化」糸魚川にすぎたる物「豆腐、ゲンパク、稚児の舞」

(委員) 「健康」健康を通貨に。ポイント等にして貯めていく。「生産年齢人口を5歳あげる」働ける人を増やしていく。「子育て」子育てに特化した町内会をつくる。「旅の人が気に留めるまち化(移住)」糸魚川で半年仕事をする人をケアできる環境設置(自動車学校に来ている人多い。。「望郷の起爆装置(教育)」市外に出て行っても、戻ってきたくなるアドバイザー等の設置。

(委員) 「公共空間の使い方」駅北広場、市民公園など。「空き家」増えてくる空き家への対応。「交流」世代間の交流のきっかけ。「街なか回遊」。

(委員) 「豊かな子育て、教育」子にとって、親にとって豊かな教育を考える。「柔軟な働き方、稼ぎ方」短期間働く、複数事業所に勤めるなど。「ワクワクする農林業」おもしろい作物、木材製品を作っている人もいる。「移住者を巻き込んだコミュニティづくり」。「休まる糸魚川」地域の様々な会合や仕事など忙しい。休まる場所ほしい。

(委員) 「酒と食を活用した誘客」、「生産地糸魚川の強化」、「個店をつなげる」来る人を街の回遊にしていく。(ツーリズム)「日帰り街づくり」新幹線をつかって都市圏とつながる。「街と里をつなげる」中心地と中山間地の文化をつなぐ。中山間地カルチャーの発掘。

(委員) 「子育てが楽しい街」、「交流」子どもとおじいちゃんおばあちゃん交流。いろいろな世代の交流。「スーパー高齢者の社会参画」元気な高齢者(そば打ち、山菜料理など)の活動がより活発になってほしい。「空き家の利活用」放置空き家を解放してほしい。「糸魚川愛」糸魚川愛が深まるように。

(委員) 「子育て」子どもが育つ環境が大切。「シニア・シルバー」高齢者が活躍できるまち。「働く環境」小さくても、仕事の種類が多いまち。「交流」コミュニティーソーシャルワーカーの地域版など。チャレンジがしやすい、悩みを聞くなどの団体や個人。「防災」大火をきっかけとして全国に発信。

(委員) 「食」糸魚川の食材を新しい形で知ってもらいたい。食材が豊富な糸魚川を好きになって

もらいたい。「農業」地産地消、オーガニック。健康につながっていく。「暮らし」人とつながっていくことの心地よさ。「交流」人の顔が見えるつながり。「子育て」すべての基盤となるところ。

(委員)「子育て」子どもを通じて多くの交流が生まれてくる。「仕事」自分の会社が稼げて、他の会社も稼げる。「楽しむ」糸魚川の楽しさから、糸魚川最高と思ってもらえるように。

(委員)「子育て・教育（共育）」キャリア教育等をしているが、体験でなく実践教育をしていく。伝統文化などにも触れていく。「交流」近所の方々との語り。「健康・福祉」ゆりかごから墓場までの健康「環境」ユニバーサルデザイン（ベビーカー、車いすなども通りやすい）、治安（安全安心）。「定住と働く場所」業種が偏っても、小さいチャレンジができる街。

(委員)「賑わい（稼ぐ）」結婚式は市外で開かれること多く寂しい。「子育て」1人親でも子育てしやすいまち。「遊び」スキー、海、ゴルフができるまち。

(委員)「福祉」自然体として福祉をどのように取り入れていけるか。施設を作るということではなく、社会参画しやすいまちづくり。「教養」高校生のまちづくり。駅北がフィールドワークの拠点となりえないか。年をとっても知識を得たり仲間を得たり。「娯楽」リフレッシュ、休養。都会の大きい娯楽でなく、糸魚川らしさ（海、山）。「働き方」多様な働き方、時間の使い方など考える。「多様性」持続可能性。効率性、稼ぐ、非営利活動などをミックス。いろいろなものが担保できるまち。

(座長)

・ご意見いただいたテーマは、一見すると違うテーマのようで、実は網の目のようにそれぞれがつながっていると思う。どうつながっているのか、その関係性を可視化することで、より効果的な戦略をつくることができると思う。つながらなかったものがあれば、来年の発表の際に入れ込んでもらいたい。事務局から簡単にまとめの発表を。

(事務局)

・大きなテーマ「子育て教育」を基に「高齢者」、「食」、「文化」、「コミュニティ」等でつながっていく。「暮らし」「仕事」は多様性を求め、「交流」を通して、暮らしたい働きたい人をどのようにサポートするかというところで「空き家」、「産業」が勘所となる。「糸魚川愛」、「楽しく」というところも大事で「教育」によって醸成される。

(座長)

・市の計画でも皆さんからも「子育て」という点が1つの大きなテーマに見えることから、次回は「子育て」をテーマとして、お母さんの働くなどの話を派生していく形でどうか。

= 委員 承諾 =

(座長)

・次回は、「子育て」をテーマで準備し、3回、4回のテーマは改めて議論する。

8 閉 会